

平成 22 年度 第 1 回 海岸工学委員会 議事録

開催日時：平成 22 年 6 月 18 日（金） 14:00～15:30

開催場所：土木学会 2 階，AB 会議室

出席者：灘岡委員長，後藤幹事長，青木，荒木，五十嵐，池谷，伊藤，長谷部（大山委員の代理），岡安，高田（梶原委員の代理），黒木，小林，坂井，武若，津田，畑田，古川，間瀬，松本，三嶋，水谷，陸田，森，中山（八木委員の代理），横木の各委員，小笠原，柿沼，栗山，黒岩，佐々木，佐藤，重松，柴山，諏訪，森屋，山本，由比，渡部の各委員兼幹事，岩西（事務局）（敬称略）

資料：平成 22 年度第 1 回海岸工学委員会の議事（資料 1）

PowerPoint スライド（資料 2）

第 56 回海岸工学講演会（茨城県）の参加人数・経費報告（資料 3）

0. はじめに

議事に先立ち，昨年末，ご逝去された岩垣雄一先生（京都大学名誉教授）のご冥福をお祈りし，参加者全員で黙祷を行った。

1. 報告事項（後藤幹事長）

- ・委員，幹事に交代があった旨，以下の通り報告がなされた。
幹事の交替：高橋幹事→小笠原幹事，委員の交替：小野委員→梶原委員
- ・内閣官房総合海洋政策本部の調査に関わる提案募集について，「海洋エネルギー利用技術の実証実験フィールドの展開」に関する共同提案を海洋開発委員会と行うことが報告された。
- ・内閣官房総合海洋政策本部のヒアリングについて，「離島とその周辺の海域利用への提言」に関する共同宣言を海洋開発委員会と行うことが報告された。
- ・重点研究課題（先端流体計算技術のベンチマークプロジェクト，代表：渡部靖憲）の結果について，本委員会と海洋開発委員会で共同応募したが不採択であったことが報告された。また，水工学関連の 4 件についても全て不採択であった。
- ・調査部門研究企画委員会の分野委員として，辻本哲郎教授（名古屋大学）が推薦されたとの報告がなされた。
- ・小委員会設置手続きの簡素化について，調査研究部門理事の事前承認は不要となり，通常総会にて事後承認で対応することが報告された。
- ・海岸施設設計便覧に 30 部の残部（事務局保管）があり，希望する委員への配布が可能であるとの報告がなされた。
- ・横木委員より，第 56 回海岸工学講演会について，参加人数および経費の説明がなされ

た。例年よりも、経費を抑えて講演会運営ができたことが報告された。

2. 第 57 回海岸工学講演会（海岸工学論文集 57 巻）応募論文審査について（青木小委員長，渡部副委員長，後藤幹事長）

- ・第 1 段審査通過論文数は 298 編（採択率 84.1%）であり，評価総点 17 点以上の論文が 278 編，16 点の論文が 40 編であった。この 16 点の論文から，昨年度と同様の方針に倣い，評価 33334 である論文を採択した。
- ・18 点以上の論文で評価「1 点」は 0 編，16 点以下の論文で評価「6 点」は 0 編であった。
- ・査読者ごとの平均点は 3.72 点（昨年度 3.6 点）であった。
- ・近年，応募数が減少傾向にあり，特に，沿岸域の環境と生態系分野の落ち込みが大きいとのコメントがなされた。
- ・論文取り下げ（本原稿の執筆辞退）の 4 件について，編集小委員長から著者に嚴重注意をした旨，報告がなされた。このことについて審議を行い，以下の取り決めが行われた。
 - ✓ 著者負担金は徴収しない。
 - ✓ 4 件について，取り下げ理由書を提出してもらい，記録を残すこととなった。
 - ✓ 取り下げは原則認められない旨の記述を「投稿要領」に記載することにする。次回委員会にて，文章（案）を決定する。
- ・第 2 段審査論文数 294 編のうち，A 判定 81 編，B 判定 148 編，C 判定 64 編，D 判定 1 編という結果であった。
- ・論文題目および著者の変更は原則認められないことを改めて徹底してほしいとの依頼がなされた。現在，査読中の論文についても，再度，確認をするよう依頼がなされた。
- ・国際セッションについて，15 編の投稿がなされ，全て採択となった。査読者 3 名×6 点（18 点満点）で審査し，平均点 13.13 であった。
- ・原稿執筆要項について，J-Stage に掲載される PDF ファイルはカラー図が使用されるが，紙媒体の論文集には従来通り白黒印刷であることを，再度，周知徹底する必要があるとの報告がなされた。
- ・海岸工学論文集の表紙表題について，J-Stage 用に取得した ISSN との整合性がとれていないため，国立国会図書館より修正の依頼がきているとの報告がなされた。これを受け，J-Stage に合わせて ISSN は新しい番号とし，表紙及び背表紙は「土木学会論文集 B2（海岸工学），Vol.〇〇，No.1」と表記することになった。
- ・海岸工学論文集第 56 巻は，J-Stage 上に，H22.3.5 に公開された旨，報告がなされた。但し，発行年が 2010 年と表記されてしまっているため，早急に 2009 年へと修正予定であるとの報告がなされた。

- ・水谷委員（CEJ 編集小委員長）より，編集調整会議および論文集再編小委員会につて，次の通り報告がなされた。
 - ✓ 7 部門から 19 分冊へと再編される。B 部門についてのみ 3 部門が統合した従来通りの編集小委員会の体制で動く。編集体制は，寶委員長（京大）の下，8 名で行われる。
 - ✓ 編集調整会議および論文集再編小委員会の委員として，B2 部門から青木委員，B3 部門から水谷委員が参加する。また，オブザーバーとして寶委員長が参加している。
 - ✓ 現在，寶委員長がオブザーバーの立場でしか参加できない状況となっている。同委員会の正式メンバーとして加えてもらうよう B1～B3 部門合同で依頼する予定であることが報告された。
- ・論文集編集の検討課題として，以下の説明がなされた。
 - ✓ フォーマットの変更（土木学会論文集との統一化）
 - ✓ 組版維持の是非
 - ✓ 土木学会論文集 B・2（通常号）への投稿促進策
 - ✓ 国際セッションの活発化
- ・海岸工学講演会運営経費の収支について詳しい説明があり，著者負担金¥35,000（上限 ¥40,000 にて周知済み），論文集価格¥5,000 とするとの報告がなされた。

3. 第 57 回海岸工学講演会の準備状況について（森委員，岩西氏）

- ・実行委員のメンバーの変更（安田委員→平石委員）がなされた。
- ・その他，日程，会場，懇親会，予算等の最終確認がなされた。
- ・宿泊について，ピークシーズンと重なるため，早めの予約を cecom でアナウンスする予定である。
- ・見学会について，A コース（関空，定員 25 名）については現地集合・解散，B コース（大阪港遊覧+津波・高潮ステーション，定員 40 名）についてはバスチャーターの予定である。
- ・業界案内欄掲載・展示ブース等（¥50,000/件）の案内について，業界へダイレクトメール・アナウンスを行うことが確認された。

3. 第 58・59 回海岸工学講演会の開催について（小笠原委員，陸田委員）

- ・小笠原委員から，第 58 回海岸工学講演会は，岩手県盛岡市・アイーナにて，H23.11.9（水）～11.11（金）の日程で行われることが報告された。
- ・その他，会場，見学会，懇親会の準備状況および予算見積もりについて報告がなされた。
- ・陸田委員から，第 59 回海岸工学講演会は，広島県で開催する予定であることが報告さ

れた。開催都市については現在検討中。

4. Coastal Engineering Journal について（水谷小委員長，佐々木副委員長）

- ・ CEJ の査読状況について報告がなされた。
- ・ 2009 年度の登載論文数は 16 編であり，タイトル・著者の紹介があった。
- ・ CEJ Award 2009 は以下の論文に決定した。

A NUMERICAL WAVE TANK USING DIRECT-FORCING IMPERSED
BOUNDARY METHOD AND ITS APPLICATION TO WAVE FORCE
ON A HORIZONTAL CYLINDER

by K. H. Lee and N. Mizutani

- ・ CEJ の Quality を高めるために，日本人が積極的に CEJ へ投稿することが大切であるとの意見が出された。
- ・ 土木学会論文賞が，CEJ の中から，以下の通り選ばれたことが追加報告された。

Developing Fragility Functions for Tsunami Damage Estimation Using Numerical
Model and Post-Tsunami Data from Banda Ache, Indonesia

by S. Koshimura, T. Oie, H. Yanagisawa and F. Imamura

5. 研究小委員会活動について（各小委員会の委員長）

- ・ 広報小委員会より，資料に基づき説明がなされた。2008.2 富山湾高潮災害資料の収集についてデータ整備が済んだことが報告された（武若小委員長）。
- ・ 沿岸域研究連携推進小委員会より，資料に基づき説明がなされた。モニタリング，沿岸データを収集し，多くの方々が使用できる方法を検討中である。また，調査・分析マニュアルの作成についても検討中である（重松小委員長）。
- ・ 数値波動小委員会より，資料に基づき説明がなされた。土木学会より，報告書を出す予定であり，現在，原稿を収集中である。海講までにはもう少し進展させる予定である（岡安小委員長）。
- ・ 地球温暖化適応策検討小委員会より，現在，報告書を作成中であることが報告された（横木小委員長）。
- ・ 「チリ地震に学ぶ」と題するセミナーに関して，今村委員（東北大学）より資料が紹介された。併せて，津波小委員会よりの資料が示された。
- ・ 津波非難支援技術検討 WG（委員長直属 WG）より，メンバー構成と活動のポイントが説明された（岡安 WG 主査）。
- ・ 企画運営 WG より，資料に基づき説明がなされた。他の関連学会より投稿数増加の取り組みを調査中である。また，海講参加者・投稿者へアンケートを実施（既にアンケート作成済）し，秋以降に改革案を検討する（森 WG 主査）。

6. 第 46・47 回水工学に関する夏期研修会 (B コース) 開催について (重松委員, 陸田委員)

- ・ 第 46 回の A コース, B コースのテーマ説明および講演内容が紹介された。なお, 開催地は神戸大学である。
- ・ 参加者が年々減少傾向 (約 50 名前後) にある。参加費が高く学生が参加しづらいことも一因と考えられる。メディアを CD・DVD 等とし動画が組み込まれる方法を検討したらどうかとの意見も出された。
- ・ 第 47 回 (主担当: 海岸) は広島で行われることが報告された。

7. その他

- ・ Coastal Structures 2011 (Abstract Submission 2010/9/5, Conference 2011/9/5-9) の案内がなされた。
- ・ 次回幹事会: 9/29 (水), 14:00~, 委員会: 11/10 (水) 18:00~

議事録担当: 陸田 (広島大学)